



だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば
代表 加藤 賢三
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
環境活動推進チーム
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969

祝！会報50号記念

鈴木 優子

1997年に千葉県内のリサイクル、環境学習、自然の保全、ゴミ問題のグループなど、さまざまな分野で活動する市民団体が参加して、「環境パートナーシップちば」が誕生しました。それまでは別々に行動していた環境グループがともにダイオキシン・温暖化防止・アセスメント法、エコツアーなど学ぶ場づくりや地域支援を通して、ネットワークが広がっていきました。

当時の、千葉県環境基本計画は、循環社会の構築、

自然との共生、地球環境保全への貢献、皆が参加する取り組みでは環境学習の推進が挙げられ、環境の最後の花盛りの時期でもありました。これらは今世紀も大きな課題です。100号までの道のりは遠いけれど、まだまだ続きそうですね。NPOと呼ばれるようになって、やることは同じ。筋の通った市民グループが自主的な活動で、必要なネットワークづくりと、目標達成していく確かさが見えてきました。

だより50号の価値

横山 清美

誕生3年目の環パちばのバトンを引き継いで、会員の意見を政策提言や活動方針の中にどう活かしていくかを、検討してきました。その間、研修・セミナー・エコサロン・エコツアーの成果をだよりに掲載して、だよりを通じての意見交換からパートナーシップの種が芽生え育つという一つの形が出てきました。

当時の新米代表を支える副代表とスタッフが県

内各地から集まり、熱い議論を交換した運営委員会は、今となるとなつかしい気がいたします。2003年に加藤賢三代表となってからは、パートナーシップをモデルとして具体的に示すためにも事業をとという方針の下に印旛沼の環境学習が提供されました。だより50号の価値から100号の効果へと大きく期待しています。

これからの環パに期待されるもの —千葉の環境パートナーシップの担い手として—

加藤 賢三

「環パちば」は千葉県の環境を良くするため、主として県内の環境団体のまとめ役を果たすべく設立され、パートナーシップによる活動の推進をしてきたと理解しています。初代の鈴木優子代表が2年で基礎を築き、二代目の横山清美代表が4年間、この6年間に当初の目的である市民と企業と行政のパートナーシップの育成に道が開かれました。平成15年4月に、三代目の代表として、選出され早いもので4年目に入り、今年が10年目にあたります。そして、なんと今回が記念すべき50号ということで、特別な感があります。

4年前からは自立のために、積極的に事業の展開をはかりました。たとえば、環境再生のため、印旛沼をきれいにする活動、印旛沼わいわい会議、印旛沼あつぷ事業などです。また、資源循環型社会の実

現に向けての取り組み、環境シンポジウムやエコメッセージとの連携等、「環パちば」メンバーはそれぞれに異なる活動分野や地域を抱えての連合体なので、その特性を生かし、県とのパイプ役やメンバー交流のコーディネーターとしての活動をさらに充実したものにして行くとともに、今後、千葉の環境パートナーシップの担い手として、特に、環境学習については、環境パートナーシップ推進協議会の設立や環境パートナーシップサミットの開催なども期待されています。

いまこそ、市民主導型の環境ネットワーク、市民・企業・行政とのパートナーシップの構築により持続可能な社会の実現に向けて、活動の輪を広げて行く必要性を実感しています。

～ 印旛沼をきれいにする活動～

印旛沼の水が水道水になるまで

「印旛沼をきれいにする活動」(18年度事業)の親子体験活動が7月8日(手繰川)スタートしました。7月31日は「印旛沼の水が水道水になるまで」の親子体験学習会を開催しました。活動内容は、

- ・ 柏井浄水場の見学
- ・ 花見川公園で生き物生きもの観察と学習

参加人数はエコマインド活動体験生も含め総勢27人でした。

< 柏井浄水場の見学 >

柏井浄水場は、千葉県北部で生活している住民の水道水を作っている浄水場で、千葉市花見川区の住宅街に囲まれた広い敷地にありました。浄水する水は、地下に埋められた導水管を通して送られてくる、「印旛沼の水」と「印旛沼を通らずに利根川から直接送られる水」の2通りがありました。汚れた印旛沼の水と利根川の水では、浄化する方法が違っているとのことです。

まず、学習室で水が出来るまでの具体的な内容を映像を使って説明があり、その後で、浄水場の先生から子どもたちに分かりやすく話しかけていました。子どもたちも食い入るように説明を聞いていました。

浄水場の現場では、通常は印旛沼の浄水施設の見学は許可が出ないのですが、当会が印旛沼の水について活動していると理解していただき、急遽案内してくださいました。まず、印旛沼の水を取り入れる取水塔から始まり、各家庭等に送水する給水場までの過程を1つ1つ分かりやすく説明していただきました。

泥や砂、その他いろいろな物が混じった汚い水が段階を追って透きとおった水に変わってゆく様子が良く分かり、子どもたちも暑さに負けず熱心に、各工程の現場を覗き込んでいました。

< 花見川公園で生きもの観察と学習 >

浄水場の学習を終えてから花見川公園に移り、まず園内の小川で生きもの観察をしました。

新島偉行先生が網を使って子どもたちと一緒に



生きものを探し、子供たちも「これは何だ?」、「わかんないなア」と友達どうして声をあげていました。人工の川ではありますが、水の中に入りとても楽しそうでした。昔ならどこにでもあった光景です。人間は水辺が好きだとよく言われますが、そのとおりだと思います。

野外学習の後、室内に入り、「生きもの」と「水」の勉強をしました。

まず、新島先生が、用意されたスライドを使って身近にいる魚などの生きものについて話をされ、採集してきた生きものを観察しました。同じように見える魚でも、比べてみると違いが分かり、大人もそうですが子供たちもよく分かったようです。

次に、小倉久子先生が「水」の話をされました。見学してきた「浄水場における飲める水を作る苦勞」や「水を汚す影響」について話され、私たちが汚すことで自分も含め多くの人に悪い影響を与え、飲み水ばかりでなく、汚れた水で作られた農産物などを食べることによっても影響を受けること、そして今、水についても、もし、どこかの国が汚れた水で農産物を作ると、それを食べた国の人が苦しむということがおきかねないと、具体的に分かりやすく話されました。(文責 千葉 智雄)

「資源循環型社会を考えるタウンミーティング」開催地報告

平成14年10月に策定された「千葉県資源循環型社会作り計画」の見直しと「千葉県廃棄物処理計画」を一本化することにより、進化する「千葉県資源循環型社会作り計画」の改定に向けて、県民の意見を聞くということで、県内5箇所で行ったタウンミーティングが開催されました。

In 八千代

実行委員 加藤 賢三

私たちの社会は、大量生産・大量消費、大量廃棄型の経済活動により物質的な豊かさを志向してき

た結果、不法投棄や自然環境の悪化を招いています。今年「県の資源循環型社会づくり計画」の見直し

の時期にもあたり、県の要請によりゴミ問題や環境汚染など、地域の問題を語り合う、協働のタウンミーティングを市民と行政、そして企業の実行委員会形式で八千代市を皮切り開催されました。

平成18年7月19日(水)13:30~17:00、八千代市福祉センター第3・4会議室(全体会・分科会)と八千代市役所第3会議室(分科会)において、3分科会に分かれ、80名の参加者のもとで行われました。

第1分科会では、「ポイ捨て・不法投棄問題」について、第2分科会では、「ゴミ減量作戦」について、第3分科会は「環境学習」について語り合いました。

第1分科会の主な意見は、1)環境教育は子どもへはだめ、親を教育すべき。2)焼却炉はごみ減量化の徹底により廃止可能。3)ごみ処理は各市で行っているが、広域で検討すべき。4)拡大生産者責任にすべし、末端での処理は困難。5)ごみを捨てるは捨てるな。

第2分科会では、1)デポジット制度を進める。2)グリーンコンシューマーの推進。

In 市原

7月26日、市原市民会館で、みんなで語ろう「もったいない」をテーマに4分科会に分かれ、「千葉県資源循環型社会づくり計画」及び「千葉県廃棄物処理計画」に対するタウンミーティングが開催されました。これは県内5箇所開催される中、市原地区での開催でした。

正直、開催まで時間がなく、準備不足の中、よく開催できたなと思います。これは、実行委員の皆さん、地域行政の協力、特に千葉県資源循環推進室の皆さん、市原市環境関連部署には大変なご尽力を頂き、感謝しております。

当日は、第1分科会/「リサイクルシステムづくり」、第2分科会/「不法投棄・処分場の問題」、第3分科会/「自然環境・地域づくり」、第4分科会/「もったいない、言いたい放題」の4分科会で「私たちができること」の意見の提案・交換がなされ、スタッフも含め、20名程度の参加がありました。

2時間弱での話しあいでしたが、どのようにこの議題がまとまるのだろうかと思うような、白熱した議論が交わされていました。その後の発表・全体会

In 柏

7月30日(日)、柏、我孫子、松戸、野田、流山の各市より約81名の参加者が集い柏中央公民館にて開催されました。全体会では、千葉県資源循環推進課長より本年は資源循環型社会づくり計画の見直し時期に当たり、広く県民の皆様からご意見を賜りたいとのお挨拶の後、第一分科会では「ゴミ

3)企業・市民団体など環境への配慮・活動を行っていることをほめる制度(千の葉プロジェクトの周知)。4)「買いすぎない」、「作り過ぎない」、「残さない」の生活姿勢が必要。5)レジ袋削減のため、カードを広域で利用できるように共通化して欲しい。

第3分科会では、1)環境学習・教育は 地元の学校とタイアップしカリキュラムをしっかりと作って継続できる形を作ることが大事なことで、児童が卒業していてもカリキュラムがあれば継続できるはず。2)子どもたちはしっかりと行動していることが多いので、親子で一緒にやっていくことが大切だ。3)環境学習・教育は、教師と子どもの関係ではなく、身近な自然(里山、斜面林、公園など)や生活の中で関わることで感性を育て情緒の安定も図れるようになる、などでした。今回の意見が「資源循環型社会づくり計画」の見直しに反映され、私たち市民もこれを契機に、地球温暖化防止を含めた、持続可能な社会の実現のために何をすべきかを考える良い機会にしたいと思いました。

GONET 井上健治



では、それぞれの分科会に参加された市民から、熱い思いの良い提案がなされました。

開催してよかったですが、1回のみで開催で終わることなく、今後はこのような場が定期的に地域で開催され、それが集約され県や市町村政策に反映される、そんな仕組みづくりが必要になってくると思います。

本当の意味での環境保全を含んだ、資源循環をみんなで考え行動し、未来へつなげるような・・・。

石川好隆(環パちば)

はどうしたら減らせるか」第二分科会では「環境負荷の少ない地域をめざして」に分かれて活発な討議が繰り広げられました。

事業者代表からは、大型スーパーにおいてストップレジ袋をめざしてポイント交換システムの構築やマイバッグを安く販売するなどの紹介がありまし

た。これに対して、その都度「レジ袋は必要ですか」と一人一人に問いかける事や有料化にしたり、レジ袋を使うと環境に対して罪悪感を覚える様な文章を袋に印刷したら等積極的な意見が色々出されました。更に紙ゴミ減少を目的に、野菜の納入を段ボールからプラスチックの通い箱に転換した事も報告。野田市の消費者代表より、昨年度家庭ごみ排出量が700g/日/人以下の実績で日本一になった野田市の事例報告があり、家庭の所帯人数に応じて配布された一定枚数をオーバーした場合170

円/枚で購入と高額にした事や市民と行政が協力して取り組んで来た経緯の報告があり、盛大な拍手を受けました。この中でゴミ袋を記名式にしたが減量にはならなかったとの報告もありました。また県に対する要望として、県がリデュース、リユース、リサイクルの3Rを推進している事が伝わって来ない。「環境に優しい」人づくりとして、「環境教育立県」として取り組む姿勢が欲しいとか、色々な意見が出ていて、参加された方たちにも大いに参考になったようでした。

In 南房総

実行委員 荒尾 繁志

タウンミーティング4会場目「資源循環型社会づくりを考える集い in 南房総」が、8月3日(木)午後1時30分～午後4時40分まで、館山市コミュニティセンター中央公民館で開催されました。事前準備として、7月13日に館山市中央公民館で、最初で最後の実行委員会を行い全体の内容、五分科会の運営、役割分担など検討し、大筋の決定をしました。それ以降の準備はメールや電話、FAXなどで各分科会の中心人物が核となって進められました。

当日は良い天気恵まれNPO、南房総で活躍している団体、市民の方々 行政の関係者を合わせ約百名の方にお集まり頂き、地域の方の期待を感じました。

全体会は、趣旨説明と、忌憚の無いご意見を交わしていただきたいと分科会に引き渡されました。分科会は、資源を生かそう(有機農業や資源の再利用について) 残土・産廃・不法投棄をなく

そう、海をきれいにしよう 産業廃棄物処理施設立地について まちづくり 人づくり(環境学習)の5分科会でした。

「海をきれいにしようよ」「大多喜町の産業廃棄物処理施設問題」「御宿町で、子どもたちとの関わり」など、地域色の濃い分科会が展開された。

分科会終了後の全体会では、分科会報告がなされました。たくさんの報告で、全体での意見交換の時間が無くなり、実行委員会から、「アンケートへのご協力」「今後タウンミーティングの結果が公表されるので必ず目を通していただきたい」「計画書が出来たら本当に目的を達しているのか見守っていただき支えていただきたい」とお願いをして閉会となりました。

各地の環境フェア(環境月間)の報告より

限りある資源 無駄なく活かして 温暖化防止

6月3日(土)浦安市環境フェアが、JR新浦安駅前広場で楽しく開催されました。温暖化防止のテーマに沿い、市民団体の中でも環境シンポジウム千葉会議の行動委員会の初参加は、男性がミシンを使ってマイバッグを作っていたため、市民が注目していました。これから男性ミシン教室は、良い活動路線かもしれないですね。

また、毎年恒例となった三番瀬保全活動の団体同士の協力による「三番瀬の生きもの水槽」や「二枚貝の水質浄化実験」の出展にも多くの市民が寄りつき、熱心に説明を聞いたり見たりしていました。

このように多くの市民が参加する駅前広場での啓発活動には、積極的に浦安市環境部の各課も

横山 清美
参加していました。例えばゴミゼロ課は、ゴミを作らない生活に必要なことは何だろうか、市民に直接声をかけ意見を聞き、大きなボードに書き込んでもらっていました。これは、現在は市の再資源化施設であるピーナスプラザに展示してあり、足をとめてじっくり見る人が多いようです。

このように、市が積極的に市民に声をかけていくことは、大きな効果のあるものと感じます。またステージ上での各団体の紹介など、参加する楽しみも多く、そして直接市民と対話することで職員の意識も高まっていくように感じた環境フェアでした。夏休みの今は、昨年からはまった「浦安打ち水大作戦」を各地域で取り組むサポートに力を入れているようです。

ちばし手づくり環境博覧会に参加して

東京電力(株)千葉支店 佐藤 司

6月6日(火)、千葉市主催の「2006 ちばし環境フェスティバル」が千葉市文化センターで開催されました。そのプログラムの一環として、民間団体や企業等が取り組んでいる環境保全活動を展示発表する「ちばし手づくり環境博覧会」が30団体の参加により実施され、東京電力は千葉支店と千葉火力発電所が合同で出展いたしました。

当日は、同時に開催された記念講演会に参加する市民など多数の方々に手づくり環境博覧会場を訪れていただき、11時から14時までの展示時間中、会場内は常に賑わっていました。当社ブースでは、地球温暖化防止への取り組み、尾瀬における自然保護活動、千葉火力発電所で実施している稲作体験学習などについてご紹介し、200名近い方とお話しをすることができました。

今回のイベントに参加して、当社の環境への取り組みをより多くの方に具体的に知っていただくことに加え、参加団体の皆さまの活動について学ばせていただいたこと、団体間の交流ができたことが有意義であったと感じております。このような機会を



通じて団体間のパートナーシップの構築を図っていくことは企業にとっても大切なことと考えます。

また、昨年、今年と手づくり博覧会の実行委員をさせていただいたことから、委員や千葉市環境調整課の事務局の方々と展示発表の企画に関していろいろとコミュニケーションを図ることができました。実行委員長を務められた環境パートナーシップちばの桑波田さんをはじめ委員の皆さま、事務局の皆さまには大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

もっとつくってほしい!

~~~~好評だった「こどもイベント広場」~~~~

大西 優子

昨年に続き「体験しよう!」をテーマに、船橋市環境フェアは6月10日(土)船橋市中央公民館で開催されました。市民団体31、事業者団体16、行政4の団体がパネル展示や実演を行い、加えて2つの小学校の音楽部などの演奏もありました。

こどもたちに自然環境や地球環境のことにもっと関心を持って貰いたい思いから、今年は「こどもイベント広場」の大きな会場を設けました。木の輪切りを使った人形づくり、森で拾ったどんぐりのアクセサリ、切り出してきた竹で竹とんぼ、三番瀬の生きものの写真の図鑑づくり、メダカとカダヤシの違いが分かるかな? コーナー、ごみ分別の体験コーナー、回収ビンの破片で作るコースター、地球温暖化のことを知ってもらおうパワー君の体験・CO2って見えるのかな? パソコンで地球環境を見てみようのコーナー、ごみ分別の紙芝居、つたや小枝で森をイメージしたコーナーでのネイチャーゲームなど、それぞれの団体のこころのこもった材料集めや工夫がこどもたちを喜ばせました。中でも、学生の指導によるミニロボット作りは人気で、お父さんどうして動くのと会話の弾んでいた親子もいました。



環境フェアは、前述の参加団体で実行委員会を構成していますが、テーマの設定、運営のあり方、参加者の呼び込みの工夫などその討議の過程は、団体間の理解や交流に役立っていると思っています。

来年は10回目を迎えるフェア、出展団体も来場者も充実できる内容の検討が始まっています。

## ゴミ拾いから見えてくるもの

高橋 晴雄

「四街道をきれいにする会」は毎月15(5×3)の日にごみ拾いをしてきた。これまで毎月1回も欠かさずに3年続けてこの8月で35回目を迎えた。月一回朝9時から駅前 住宅地 里山 畑地 川 高速道側道など所をかえて20人から45人が各地に出発する。ゴミ拾いの初めての人は「聞きしにまさるゴミ散乱」にオドロキ、継続している人は新たなゴミ様子の発生に驚く。驚きは継続の秘訣かもしれない。今年の6月はホテル生息地とその付近の清掃をした。おかげで8月調査では昨年の倍の400尾以上の蛍の求愛ピカピカを観察することができた。7月のゴミ拾いは里地であった。いずれも住宅地や小中学校の裏側に広い里山や森が展開している所だ。6月にゴミ拾いをした地域近くの猫の額の私の庭にも13種類の小鳥が来てさえずっていた。引っ越してきた頃 たまたま訪ねて見たタイの大学院学生はここは公園の中ですかと真顔できいたものだった。

### この2,30年の変化

ところが17,8年経た今日 由緒ある地名を持つ森は荒野になり開発中断で肌地まるだし。その近くの森は残土や不法投棄産廃銀座の汚名を冠しても語られるようになった。一方7月にゴミを拾った所は森のほんの一角拾ったに過ぎないが、でてきたものは大きなゴミではエレクトーン、多くのバッテリー、パソコン機器いろいろ、はてはゴルフセット、いろいろな家電がよりどりみどり、油缶、大量のタイヤ(22本だった) マットレス等等、その散乱の様子も数も半端ではなかった。私の幼いころこのような文明の利器はなかった。少しはあったとしても無造作にすてられてはいなかった。しかし待てよ、この現実はいと四街道だけでなく全国各地の少なからぬ現実だとしたらまさしく日本はゴミ荒野大国に変貌していく事になる。どうしてなのか。経済界へのいわゆる規制緩和。利益本位の競争経済をもっぱらとしてきた日本にしてはじめて成立した現象と言えないだろうか。もっと「多く」もっと「早く」もっと「大きく」もっと「できる」ように人々を追い立て、いわば「もっと病、所有病」に人々を駆りたててきた。のった「私」もいた。結果ゴミ、ゴミ、ゴミ。格差と排除の引き裂かれた多くの「私」たち。その犠牲(例えば就労者の3人に1人はすでに非正規職員になった。中高年の自殺者は3年連続3万人)の上で大企業や銀行の史上最高の利益が生まれ、いわゆる「景気が回復」し政治献金が大手を振り、政治家は日本と国土を愛せよといい始めた。ゴミ列島をかえる政策展望を全く示さないままに。私たちは拾い集めたゴミを4箇所にとめた。ゴミを拾った翌翌日、市のクリーンセンターの清掃車を道案内してこの森に入った。土砂降りの雨のなか整理するセンター職員の働き振りには頭が下がるものがあった。地域生活を先端(深部)で支える人たちであった。ゴミ

と一緒にモラル(人間の誇り)もすてて増大する近代化の負の遺産に呻吟する現場労働があった。しかしそばの住宅に住む人たちはこれを知る機会はない。仕事や通勤時間に大半を割かれ地域での生活接点が少ないこともある。これでいいのかどうかは別として市民活動に関わる定年組みと自営者、主婦、にゴミを拾う役目が廻ってくる。

### ゴミを拾う意味と意義

34回拾ってきていえることは その報酬は拾ったあとの気持ちよさを味わえることと仲間が出来ることであろう。また拾う人は絶対ゴミをその辺に捨てなくなる。そして不法なゴミ投棄に批判力を持つようになる。「きれいにする会」では実際にゴミを拾うことで自治体政策に活かしてもらおうとそのつど市と市議員にチラシを渡してきた。あの悪臭をかぎゴミの手触りを体験することで仲間になってほしかった。ゴミ一掃の流れを作りたかった。四街道のゴミをたっぶり含んだ汚水は千葉県民の飲料水源の印旛沼につながっていることを実感してほしかった。しかしこれまで参加した議員は4人、市長は1回目の時挨拶に見えた。スタートは3年前 堂本知事が四街道の不法産廃の視察の折あつまった福祉や環境、子どもや木工クラブや自治会などの市民団体の有志で始めた。しかしやる事は黙々とした地味なゴミ拾い。派手な話題性はない。票には結びつかないのかもしれない。もっとほかに市政、県政に大事なことがあるからだという反論もあろう。ただちよびりでも具体的な地域ごみに目線があってほしいと思う。その点では中高生や学生は素直である。ある大学で「四街道のゴミ事情」を題材にしながら授業のひとつコマとして「キャンパスゴミ」を取り上げた。春学期最終講で「夏休み登校してキャンパスのゴミ拾い」を呼びかけてみた。30人と読んでいたが、受講生の半分弱の90人が14日登校して腰をかがめた。「拾う側になってみると始めてわかる」「実際にゴミ拾いをしてみて、見たり聞いたりするのはやっぱり違うなと思いました。」「今日は暑かったので汗がだらだら出てきて、大変でした。もうポイ捨てはしません」「反省しました。私はポイ捨てをしたことがあります」「きれいになったら心もキレイになった気がしました。」「ゴミを拾うという行動がその環境を好きになることにつながると実感しました」「私はこれを機にゴミ捨てはしない」「今日のゴミ拾いは楽しかった」「人の役に立てることのすばらしさを知った。この授業で自分の考え変えることができたような気がする。履修して本当に良かった」。同じような感想がつつく。若い人から学べたのは世にいう「環境教育」は現に生きて住む足元の生活や自然の中で「住み心地のよさ」や「居こごちのよさ」を求め、科学の光を当てる「体験共育」がいいということだった。それにしても過度な近代物質文明からギヤチェンジしないですすめば持続不可の大変な世紀を迎えるわけだが 生活や地域体験での「まちづくり 地域づくり」がその気づき 覚醒のよい機会を提供するのではなからうか。

## みんなで楽しむ環境まつり ～エコメッセ2006in ちば～

### 9月3日(日)開催

11回目のエコメッセは、9月3日(日)に「エコメッセ2006in ちば」と名称を新たにして、幕張メッセ国際会議場を会場に開催いたします。この催しは、持続可能な社会の実現を目指し、市民・企業・行政などの各主体のパートナーシップのもとに、子どもから大人までが楽しみながら参加できる環境イベントです。開催にあたっては、市民、企業、行政(千葉県、千葉市)などからなる「エコメッセ2006in ちば」実行委員会(委員長 加藤賢三)が、企画から運営までを担っています。

「エコメッセ2006in ちば」実行委員会は、この環境イベントを通して、参加者に市民活動団体や企業などが取り組む活動への理解を深めていただきながら、環境を考える楽しい一日を提供します。

当日は、多くの方のご来場をお待ちしております。

詳細は、エコメッセ2006in ちばのチラシやHP:<http://ecomessechiba.jp/>をご覧ください。

- ・ 日 時：2006年9月3日(日)10:00～16:30
  - ・ 場 所：幕張メッセ 国際会議場  
(千葉市美浜区中瀬2-1)
  - ・ テーマ：めざせ、持続可能な社会  
～楽しく、賢く、エコライフ～
  - ・ 入場無料
  - ・ 主 催：「エコメッセ2006in ちば」実行委員会
- 内 容：各ブースでの環境に係る展示  
エコステージでの催し  
STOP地球温暖化 in エコメッセ2006を併催

## 「環境シンポジウム2006千葉会議」 まず6分科会開催！！

市民・企業・行政・大学のパートナーシップで環境のことを考える「環境シンポジウム2006千葉会議」が9月9日から、以下の日程で開催されます。今年は「学生・若人の環境保全活動分科会」が新たに加わりました。2006年度テーマ“身近なことから始めよう、目指すはストップ温暖化”に向かい、各分科会が内容を工夫し、多くの方のご参加を募っています。より良い環境作りに地球市民の一人として、アクションをご一緒に考えてみましょう。また、2005千葉会議で採択された、「CO<sub>2</sub>ダイエットちば」行動委員会が発足し、「CO<sub>2</sub>ダイエット宣言」「自分が持つマイバックを自分がつくろう」等の活動を11月12日の全体会でご報告いたします。こちらも是非ご参加下さい。

詳細は、環境シンポジウム2006千葉会議リーフレットをご覧ください！

HP：<http://www.cit.nihon-u.ac.jp/chibakaigi/>

| 分科会名             | 開催日時                | 開催場所                   | テーマ                            |
|------------------|---------------------|------------------------|--------------------------------|
| 第1「温暖化防止」        | 9月9日(土)13時～17時      | 日本大学生産工学部津田沼キャンパス14号館  | 広めよう！1人1人のエコライフ                |
| 第2「ごみ問題」         | 9月10日(日)13時～17時     | 同上                     | 減らそうレジ袋1！<br>-なぜ、広まらないマイバック    |
| 第3「里山・川・湿地の保全」   | 9月17日(日)13時～14時     | 同上                     | “日々の生活の場に、里地・里山を取り戻そう！”        |
| 第4「環境教育」         | 9月16日(土)10時～16時     | 同上                     | 環境教育プログラム大交流会<br>～めざすはストップ温暖化～ |
| 第5「地域の環境保全」      | 9月24日(日)10時～16時     | 同上                     | 見て聞いてやってみよう、温暖化対策を！            |
| 第6「学生・若人の環境保全活動」 | 10月7日(土)11時～16時     | 千葉大学西千葉地区法経学部棟(106講義室) | 学生が地域と考える環境教育                  |
| 全体会              | 11月12日(日)10時～15時30分 | 日本大学生産工学部津田沼キャンパス37号館  | 身近なことから始めよう、目指すはストップ温暖化        |

### 6月運営委員会

日時：6月23日(金) 場所：船橋女性センター

#### 【報告事項】

- 1) 環境月間開催：・浦安市 ・千葉市 ・船橋市
- 2) 印旛沼あっぱ事業  
「ともに築く地域社会事業」西印旛流域  
・採択決定 「印旛沼をきれいにする活動  
～印旛沼流域子ども会議～」¥469,200円
- 3) 千葉市エコ体験スクール事業(花見川区)  
委託決定
- 4) 千葉市市民活動センターパネル出展(7月中)
- 5) エコメッセ事務局進捗状況

#### 【協議事項】

- 1) だより49号進捗状況
- 2) だより50号(記念号)について
- 3) 印旛沼あっぱ事業
- 4) 千葉市エコ体験スクール事業(花見川区)
- 5) 「資源循環社会を考える集い」

### 7月運営委員会

日時：7月24日(月) 会場：船橋フェイ

## お知らせコーナ

#### 印旛沼流域子ども会議

日時：9月10日(日) 午後1時～4時30分  
 場所：佐倉市ミレニアムセンター  
 内容：流域での親子体験どうだったかな？  
 主催：環境パートナーシップちば  
 申込み・お問い合わせ：桑波田  
 Tel/fax：043-258-5437  
 e-mail：kuwahatak@hotmail.com

#### 「ひまわりエコ?・資源循環をたのしく体験」

主催：ちば環境再生県民の会 環境教育を進める会  
 日時：8月27日(日) 13時～16時  
 場所：松戸市民活動サポートセンター・多目的ホール

お問い合わせ：中岡 tel/fax：047-385-8950  
 e-mail：naka.hta@trust.ocn.ne.jp

#### 【報告事項】

- 1) ・手繰り川での川の学校開催・・・7月8日(土)  
・PT会議(白井市)に出席・・・7月14日(金)  
・花輪川での川の学校開催・・・7月24日(月)
- 2) 千葉市エコ体験スクールチラシ(花見川区)発送
- 3) 「資源循環型社会を考える集い in やちよ」開催・・・7月19日(水)
- 4) 千葉市市民活動センター体験活動受け入れ説明会(3名が環パちばへ体験活動希望)
- 6) エコメッセ2006inちば」進捗状況 ・8月1日の出展者説明会へ向けて準備中
- 7) エコマインド生5名が環パちばへの活動体験に参加。

#### 協議事項

- 1) 印旛沼をきれいにする活動  
・「印旛沼の水が水道水になるまで」
- 2) 千葉市エコ体験スクールのプランについて
- 3) だより50号について
- 4) 10周年事業について
- 5) パートナーシップエコサロン

#### パートナーシップエコサロン

日時：2006年8月21日(月) 18時半～20時半  
 テーマ：「景観法について」

- ・景観法の概要
- ・千葉県の景観について(良い景観、悪い景観)
- ・県内の景観まちづくりの取組事例や景観計画の紹介
- ・意見交換

\* 千葉県は都市景観と日本の代表的景観である谷津田、里山、棚田、半島、海岸、干潟などの景観をあわせ持っている特長があり、景観法の条例化を視野に入れて検討しています。

講師：千葉県 県土整備部都市計画課  
 美しい県土づくり担当

場所：船橋市女性センター 研修室  
 資料代：500円  
 申し込み問い合わせ：桑波田  
 Tel/fax：043-258-5437  
 e-mail：kuwahatak@hotmail.com

古紙100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

申込先：千葉県環境財団 環境技術部  
 環境活動推進チーム気付

TEL:043-246-2180 FAX:043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/

千葉県環境財団 環境技術部 環境活動推進チーム気付

### <環境パートナーシップちば>

#### 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)  
 会費を添えて入会します

|     |                              |       |  |
|-----|------------------------------|-------|--|
| 氏名  |                              | 入会年月日 |  |
| 住所  | 〒                            |       |  |
| TEL |                              | FAX   |  |
| 年会費 | 個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円 |       |  |